



地域の名産を 生かした遊び けん玉遊び



生産日本一のけん玉を使い 保護者が先生となって一緒に遊ぶ

山形県長井市は、競技用けん玉の生産量が日本一ということから、市全体でけん玉の振興に力を入れています。平野児童センターでは、保護者が先生となり、けん玉遊びの講習会を実施。安全に楽しく遊べる工夫をしています。



ねらいと活動展開のポイント

保護者が先生となり直接教える

地域に根付いた遊びを取り入れる際、保護者や近隣に住む高齢者など、地域の人材を活用するのが良いでしょう。なじみのある人から教えてもらうことで、より一層意欲的に遊ぶ子供の姿を見ることができます。

地域の遊びを次世代に伝承

けん玉遊びを教えてもらった子供たちは、大人たちが見せたたくさんの遊び方や技に憧れを抱き「あんな風にやってみたい!」という意欲をもって遊ぶようになります。そして、家や保育施設で遊びを楽しみ、周囲にも広がっていきます。



けん玉遊び



●まずはけん玉になれる
一般的なけん玉遊びに入る前に、けん玉に親しむための簡単な遊びをやってみましょう。玉を転がしてけん先に入れる「たこやき」といった遊びや、玉を落とさないで走りつないでいくリレーなど、発達に応じていろいろな遊びができるのもけん玉の魅力です。



●けん玉の技はいろいろ
けん玉にはいろいろな技があります。発達に応じて技を選んで遊びましょう。もう少しできそうなレベルのものを選ぶと、繰り返し遊び、夢中になって体を動かすでしょう。

幼児期運動指針の視点を踏まえた工夫

●子供たちは大人と一緒に遊ぶことで、面白そう、やってみようと自発的に動き出します。そのためには、大人が楽しんで遊んでいることが大切です。地域の人や保護者が子供のころにしていた遊びには、大人も真剣になって本気で取り組みます。保育者も一緒に保護者に教えてもらいながら、楽しみましょう。



『地域の人材を活用して遊びを伝承ていきたい』

けん玉が身近にある環境を生かして

- ・長井市は、けん玉の生産量が日本一なので、どこかしらで、けん玉に触れている子供が多いですね。保護者など身近な人に、けん玉のコツを教えてもらい、「特に、膝と手首の返しがコツ」など、具体的に教えてもらうことで上手にできるようになっています。
- ・粘土とペットボトルを使った手作りのけん玉も使っていますが（34ページ参照）、けん玉と同じような膝や腕の動きを経験できて効果的です。



地域や保育施設の実情を踏まえた特色ある遊びの例

地域の名産を 生かした遊び 体をほぐすごっこ遊び

どんな遊び?

たくさん体を動かしたあとに
体をほぐす遊びです

2人組になって、1人はコックさん、もう1人は標津町の名物の鮭になります。コックさんは手を包丁に見立て、鮭を調理するまねをし、「鮭のちゃんちゃん焼き」を作ります。鮭役の子供は、調理される動きをします。

ねらいと活動展開のポイント

なじみのあるものに見立て、イメージを共有

見立てるものに、地域の名産や季節にちなんだもの、子供たちになじみのある職業などを使うことで、子供の想像力が膨らみます。子供たち自身が調理をイメージしやすくなり、動きを生み出せるように声かけをしましょう。

相手の反応を見ながら動きに変化をつける

2人1組になって遊ぶので、相手の動きに合わせて、自分の動きを変えることになり、柔軟な動きが生まれます。運動遊びの前後に体をほぐす遊びを取り入れると、遊びへの意欲が高まり、けがの予防にもつながります。



体をほぐすごっこ遊び（コックさんごっこ）



- ①2人1組になる
2人1組になって、1人はコックさん、1人は鮭になります。鮭役の子は、床の上に寝そべり、鮭になります。



- ②コックさんが鮭を調理する
コックさんは、手を包丁に見立てて、まな板の上の鮭を調理します。「みそをぬって」「ひっくり返して」など、調理になぞらえた声かけに合わせて鮭役の友達の体をなでたりひっくり返したりします。



- ③鮭を食べてから役割を交代
調理し終わった鮭を、コックさんが食べるまねをします。鮭役の子供は、コックさんの動きに反応して、食べられないように逃げるなど自然と体が動いていきます。食べ終わったら、役割を交代します。

幼児期運動指針の視点を踏まえた工夫

●身近な鮭などの食べ物や、コックさんのような親しみやすい職業になりきり、夢中になって身体を動かします。調理になぞらえた声かけをすることで、子供達はイメージを膨らませ、自ら考えて動こうとします。

遊びのバリエーション

- ▶ 地域の名産など、ほかの素材に変える。
- ▶ 調理の方法でバリエーションをつける。



『楽しんだね、お疲れ様でした』

最後まで体を使って、子供同士の触れ合いを大切にしました

- ・標津町は冬の間、園庭で遊べない時期があり、室内の遊びにも工夫をするようにしています。
- ・この遊びは運動後のクールダウンです。最後まで体を使って、子供同士の触れ合いも楽しめるようにしました。また、標津町では鮭が有名ですので、身近な素材を生かして子供たちに知ってもらうためにも鮭を取り入れる工夫をしました。
- ・一緒に楽しんだ仲間と「楽しんだね、お疲れ様でした」という気持ちをこめて体をほぐすごっこ遊びにしました。

標津町立標津双葉保育園（北海道）

幼児数：85名 職員数：14名（平成28年1月28日現在）

冬は園庭いっぱいに積もった雪で迷路を作ったり、すべり台を作ったりなど、雪遊びが充実。

